



2/8は衆議院議員選挙。スマホで何でもできる時代なのに、投票だけは今も紙のままです。「**ここだけ昭和？**」と思いつつ、日本が電子化しない理由を見ていきます。



Topic 01

なぜ投票を電子化しないの？

1. 電子化はできないわけではない

—必要な技術はすでにそろっている

電子投票に必要な技術

- ☑ 本人認証
- ☑ 暗号化
- ☑ 改ざん防止



これらは銀行や行政手続きで日常的に使われています。つまり投票を電子化していない理由は技術が足りないからではありません。

技術	○
制度	△
社会的納得	×



3. 投票の電子化を求める声

—すべての人が投票できる環境を

電子化を考える人たち

- ☑ 投票所に行くことが困難な人
- ☑ 海外在住者で投票が不便な人
- ☑ 人手不足で運営が限界の自治体職員

共通しているのは、単に投票を「便利にしたい」ではなく「このままでは続かない」という感覚です。



権利の確保



現場の持続性

2. あとから説明できるか？

—便利さよりも理解と納得

選挙で重視されているのは、不正を疑われたとき、あとから誰にでも説明できることです。



紙の投票

「この紙です！これを数えました！」

- 投票用紙を見れば分かる
- 数え直せる
- 説明が短い



電子投票

暗号やシステムの理解が必要

- 処理が正確で速い
- 処理の仕組みを理解できる人は限られる

「疑われる状況」をつくりたくない



4. 他国はどうしているのか？

—投票の正解を模索する世界



エストニア

オンライン投票が前提

- デジタルIDが生活の前提
- 電子投票が成立する社会

→信頼できるデジタルを
国全体で共有



ドイツ

分からない仕組みは×

- 電子投票機を一度は導入
- しかし憲法裁判所が中止判断
専門知識がない市民でも
理解できなければならない

→利便性より分かりやすさ



アメリカ

デジタルと紙の折衷

- 投票機は使う
- ただし必ず紙の記録を残す
- トラブル時は紙で再集計

→便利さと検証性を両立



電子投票の形は、デジタルとの距離感で決まる

